

校長室だより(No.30)

令和3年11月17日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

見える学力と見えない学力 (3)

毎年6年生に行われます全国学力・学習状況調査には、教科以外に児童質問紙という調査もあります。子どもたちの学習や生活にかかる状況を把握するためのものです。70余りの質問項目の中から、前回、前々回に紹介しました4つの力と関連したものを抽出し、学力調査の正答率との相関を見てみました。

ここでは、本校以外のデータを使いますが傾向は同じです。

人間関係形成力では、

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」
- ・「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」

の2つの質問について正答率との関係を考えました。

自己管理能力では、

- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」
- ・「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」

の2つの質問について正答率との関係を考えました。

課題対応能力では、

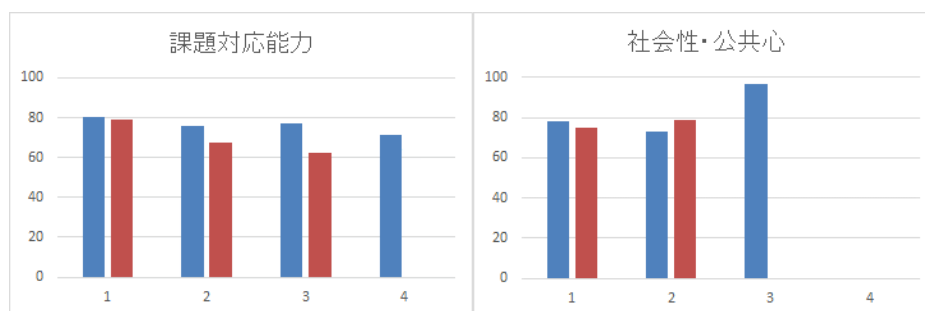
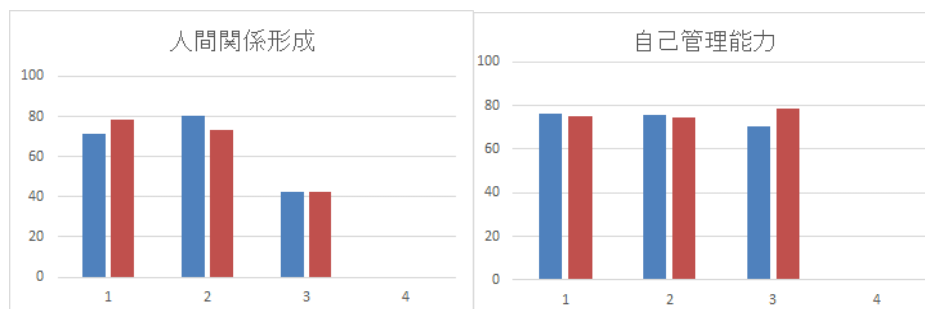
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」
- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

の2つの質問について正答率との関係を考えました。

社会性・公共心については、

- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

の2つの質問について正答率との関係を考えました。



何れの項目においても「1 できる」「2 まあできる」の肯定的な回答をしている児童の正答率(国語・算数)が高いことが分かります。

特に『人間関係形成力』については、学力との相関が高いことが伺えます。